

国語 第3学年 話したいな、好きな時間 授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍「新編 新しい国語（令和6年度版）」の単元一覧にある11月の学習。教材名と配当は公式資料を基にした。教科書の本文・台詞・挿絵・固有の問題は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

話の中心と具体例の関係を、用語の暗記だけで終えず、自分が言葉を使う場面へ移す。授業の中心は「その出来事は、好きな理由をどう表していますか」である。児童の結論だけを集めると、元から知っていたのか、授業で検討して考え直したのかが見えない。初めの答えと中心・出来事・結びの発表メモを照らし、判断の根拠がどう変わったかを確認する。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)オ	オ 様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(2)ア	ア 考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。
〔第3学年及び第4学年〕A 話すこと・聞くこと(1)ア	ア 目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。
〔第3学年及び第4学年〕A 話すこと・聞くこと(1)イ	イ 相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。

単元の目標

話の中心と具体例の関係を捉え、言葉を使う場面で役立てる。中心・出来事・結びの発表メモに自分の判断と理由を表す。友達の応答や自分の記録を基に、言葉の捉え方や表し方を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①話の中心と具体例の関係を理解し、学習で扱った語句や例を示して説明している。（〔知識及び技能〕(1)オ・〔知識及び技能〕(2)ア）	①「話すこと・聞くこと」において、好きな時間について、中心となる思いと、それを表す出来事を選び、まとまりを考えて話している。（A(1)ア・A(1)イ）	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

総時数は東京書籍の公式単元一覧による。以下の活動の配分と本時の位置は、本家で提案する授業計画である。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○話の中心と具体例の関係に関係する既習を振り返る。 ○教材や教師作成の例を見比べ、単元の終わりに残す中心・出来事・結びの発表メモの内容を確認する。	既習と語句の理解を見取り、支援の必要な箇所を把握する。
第2次	2～5 （本時は5時）	○好きな時間について、中心となる思いと、それを表す出来事を選び、まとまりを考えて話す。 ○必要な語句や資料を整理し、自分の考えを記す。 ○その出来事は、好きな理由をどう表していますかを中心に交流し、根拠を調べ直して表し方を検討する。	知①（語句や関係の整理）・思①（作成途中の記録・発言）
第3次	6	○中心・出来事・結びの発表メモを仕上げ、選んだ言葉や直した理由を伝える。 ○単元の前後の記録を読み比べ、他の学習でも使えそうな考え方を記す。	思①（成果物）・態①（見直しの理由と単元中の記録）



本時の案

本時の目標：話の中心と具体例の関係について、例や資料を根拠にした自分の考えを中心・出来事・結びの発表メモへ表すことができる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	1 前時までの記録を確かめ、今日使う教材や資料を準備する。 ○「その出来事は、好きな理由をどう表していますか」 【めあて】話の中心と具体例の関係について、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・図書の時間が好きな理由を、新しい本に出会った出来事で伝える。 ・初めの見方では決められない箇所もあり、例を比べてみたい。	本時に使う具体例が見える所へ置く。楽しいという感想を重ね、詳しい出来事を話さない姿が見られても、すぐに訂正せず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 （ 分）	2 好きな時間について、中心となる思いと、それを表す出来事を選び、まとまりを考えて話す。 3 中心・出来事・結びの発表メモの下書きや途中の記録を示し、考えた理由を説明する。 ○「その出来事は、好きな理由をどう表していますか」 4 聞き手は、説明に使われた語句や資料を示して質問する。答えが異なる所は、意味や条件を調べてもう一度表す。 〈予想される児童の反応〉 ・図書の時間が好きな理由を、新しい本に出会った出来事で伝える。 ・最初はそう考えたが、別の例と比べると直したいところが見つかった。	中心の言葉が見える所へ置き、出来事の候補から一番よく表すものを選ばせる。 説明が難しい児童には、対象の語句を選ぶ、線や矢印で関係を示す、口で説明するという方法も用意する。書く量を減らす場合も、本時に考える言葉の関係は残す。早くできた児童には、同じ説明が通らない場合や、他の言い方の可能性を考えさせる。 ◎思① 好きな時間について、中心となる思いと、それを表す出来事を選び、まとまりを考えて話している。（途中の記録・説明）
まとめ （ 分）	5 中心・出来事・結びの発表メモへ、本時の判断と理由、見直した箇所を記す。 【まとめ】図書の時間が好きな理由を、新しい本に出会った出来事で伝える。 6 初めの答えとの違い、または理由を確認して残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・話の中心と具体例の関係を、別の場面でも意識して使いたい。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。その出来事は、好きな理由をどう表していますかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知①（語句や関係の説明）・態①（見直しの理由。単元を通した記録と合わせる）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には話の中心と具体例の関係を確かめる語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に中心・出来事・結びの発表メモで残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に確かめたこととその後に使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

つまずきやすい所と手当て

楽しいという感想を重ね、詳しい出来事を話さない姿には、中心の言葉が見える所へ置き、出来事の候補から一番よく表すものを選ばせる。本人に読ませることと、考えを表すことを分け、読字に負担がある場合は教師の読み上げや拡大提示を使う。筆記に負担がある場合は口頭説明を教師が記録する。同じ目標のために表出の方法を選べるようにし、支援を受けたことを評価を下げる理由にしない。

プリントの案

考えと理由を残す学習カード

中心・出来事・結びの発表メモのために、対象の語句や資料・初めの判断・理由・交流後の修正を記す欄を置く。今回の中心の問い「その出来事は、好きな理由をどう表していますか」を欄の上に書く。教科書の文章や挿絵を複製しない。

見直しの理由を記すカード

最初の記録と見直した記録を並べる。「図書の時間が好きな理由を、新しい本に出会った出来事で伝える」のように何を根拠に考えたかを、自分の言葉で書く。教師の見本の写しではなく、自分で検討した語句や理由を残す。

出典：教材名・月・配当時数：東京書籍 令和6年度版 国語 単元一覧（https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_3_202503.docx）／東京書籍 国語 年間指導計画の公式入口（<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/keikaku/>）／文部科学省 小学校学習指導要領解説 国語編（https://www.mext.go.jp/content/20220606-mxt_kyoiku02-100002607_002.pdf）／国立教育政策研究所 指導と評価の一体化 小学校国語（評価規準の形式）（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

